

学生ワークショップ実施報告

2 城東地域

- ・地域の魅力と課題の抽出
- ・地域へのプロジェクト提案

亀戸九丁目まち歩き

日時:2021/04/24(土) 16:00 ~ 17:30
 参加者:志村先生、鴫田慶三さん
 M 2:安達 M 1:岩間 渡邊
 B 4:野呂 峯村



〜トピック〜
 “環境に優しく、緑の多い、
 歩いて暮らせるまち”

人物紹介
 鴫田慶三さん
 江東区亀戸九丁目町会長



1939年生まれ。中央区月島で生まれ、戦後間もない頃に亀戸九丁目に移り、亀戸九丁目にて半生を過ごす。亀戸九丁目町会には約40年ほど携わっており、平成21年より亀戸九丁目町会長に就任。亀戸町会連合町会副会長、亀戸景観まちづくりの会副会長も務める。

魅力と課題

魅力

①ふれあい橋

橋の建設費は江東区と江戸川区とで折半(2億4000万づつ)
 現在、19時頃からライトアップする。

②旧中川

戦後に灯籠流しを行なったことなどがきっかけとなり、現在の水辺活用に繋がっている。旧中川の整備前は水位が今よりも高かった。昔は水の排出が充分に行えておらず、周囲では氾濫が頻りに起こっていた。川辺エリアは縁道として整備されており、アジサイが1800株植えられている。

③手漕ぎ優先の標識

旧中川沿いの歩道に手漕ぎ優先の標識がある。昔はエンジン付の船の通り道でもあったため、現在はほぼカヌーが通行していない。

④江東区亀小橋艇庫 亀戸カヌー一万歩倶楽部で使用するカヌーを橋の下のスペースに保管し有効活用している。

⑤逆井の渡し跡

江東区と江戸川区を隔てる川にある渡しで、かつて渡し舟があった。歴史的な痕跡としては貴重。

⑥元佐倉道跡

隅田川(万年橋)から数えて六つ目。かつて跡の近くには小橋があった。

⑦亀戸浅間神社

石造鳥居富士浅間道標。石造の焼け跡のある鳥居境内には神社が入っており、区画整理で移動した。

⑧たのみの辞碑

後世に富士塚を残すための文言の碑。鴫田会長が発見し、浅間神社内に展示保管されている。

⑨亀戸の富士塚

かつて浅間神社が富士山の方角を向いてこの位置に鎮座していた。そのため富士塚を富士登山の代わりとしていた。

課題

①旧整川の埋立地(高架下)の活用。

②コミュニティサイクルのポートが少ない。

③亀戸駅から周辺の地域(九丁目)へのアクセス網が少ない。



提案

空地、公園にサイクルポートの増設

周辺の地域との地域間交流の機会を増やす。

遠くからコミュニティサイクルによって亀戸への人の流入が増える。

亀戸中央公園でのPark-PFIカフェの導入

緑が多く、広大な都市公園の特性を活かし、まちや地域の異なる賑わいを増やす。そして、亀戸地域の交流拠点を創出する。



カフェのイメージ


歴史から紐解く大島

日時: 2021/5/6 16:30~17:30
 参加者: 志村先生 久梁建夫さん
 M2: 中島 M1: 渡邊 B4: 塚村



● **現況**
 大島地区における旧中川河川敷は大島小松川公園等、まちと河川が公園という形で繋がりがし、かつ整備されている。付近には、荒川との水位調節の役目を持つ荒川ロックゲート、旧中川やその他の内部河川等の江東区の歴史を学ぶ江東区中川船番所資料館もある。また、川の駅という足湯や売店などの設備を持った施設がある。

～インタビュー内容(歴史)～


 久梁建夫さん
 1956年江東区大島生まれ。
 深川江戸資料館や中川船番所資料館の元職員。



「改撰江戸大絵図」1702年

1950年に江戸への物資の輸送路として小島川が開かれた。その後、利根川をはじめ関東各地の河川が整備され、「奥川筋」という水体系を形成。近代以降は、水運を活かし、化学工場が立ち並んだ。工員とまちの人とが、うまく関わり合い、地域は活気に満ちていた。

トピック:パラリンピックレガシータウン 瀬立モニカ選手

江東区出身で、江東区カヌー協会に所属し活躍している。

～魅力と課題～

- **魅力**
 緑が多く、水辺であることから風が通り抜けて心地よい。しっかりと水辺空間が整備されている為、ランニングや散歩のコースとして利用しやすい。旧中川では、カヌーの活動が盛んにおこなわれており、水辺空間に賑わいがある。街との距離が近く、気軽に立ち寄ることができる。
- **課題**
 江東区船番所資料館・川の駅付近に、水陸両用バスが入水する為のスロープが残っている。新しくきれいな状態であるが、現在あまり活用されていない。近隣の河川ではあまり見ない設備であり、地域資源である為、積極的に活用すべきと考える。

～提案～

道の駅の要素①休息機能、②情報発信機能、③地域連携機能を川の駅にも持たせる。

- ① **休息機能**
 にぎわい施設と常時開放し、地域住民に利用してもらう。
- ② **情報発信機能**
 施設周辺に天気や地域情報の分かる掲示板を設置する。
- ③ **地域連携機能**
 イベントを開催し、地元住民の連携・周辺地域の連携を図る。

～にぎわい施設～
 ASICS CONNECTION Tokyoは、地元住民や隅田川エリアを訪れる観光客に向けて、スポーツを軸にライフスタイルの提案を行い、人が行き交う場所を目指す目的でオープンした施設。
 →カヌーやランニングをしながら人が多い旧中川沿いでも、スポーツメーカーとの協力連携を行い、スポーツを推進することで住民の生活と川の駅の関わりを密接にし、川の駅の活性化を図る。

～水辺空間～
 かつて旧中川周辺の河川では、水運が発達しており、木材も多く運ばれていた。物資が行き交う物流の要として一役を担っていた。そこで、当時の風景を再認識し、まちづくりに生かす方法として「水上マーケット」、「水上アスレチック」、「イカダづくり」の三つをスロープ周辺で行う。三つの提案に共通する要素として材木がある。新木場では、時代の流れで失われつつある「木の街・新木場」を再定義して、まちづくりUMIDOKOプロジェクトを行っている。そこで、財木場の歴史を持つ新木場から木材を提供してもらうことで、多地域連携を図る。また、木材を用いてイベントを行い、スロープの活用、水辺空間の賑わいを創出する。



かつての旧中川



水上マーケット



水上アスレチック



イカダづくり